

神奈川県職労退職者

厚生会報

No. 7



退職後こそ

退職者厚生会

第三回定期総会

一層の助け合いを

箱根 大平荘
5月17日



この会報は、現役の中老年職員の方々にも役立つよう編集しております。在職中から退職後に備えて物心にわたる準備をしておきましょう。

県職労は退職後も退職者厚生会と協力して皆さんのお手伝いをさせていただきます。

ことにしたのである。

年金生活者も多くなっていることも考慮し、会員には自己交通費のみ負担していただくこととし、県職労の協力も得て、宿泊費等は主催者側で負担したのも前回同様である。

会員の増加もあって、今回は39名(前回28名)委任状90名(前回76名)で、あいにくの雨にもかかわらず多数の参加を得た。参加者の中には昨年の総会に出席の方が多く見受けられ、評価を得たものと嬉しかった。総会は定刻通り午後三時から地下会議室で開催された。

●総会のあらまし

(会報六号総会議案参照)

(1)昭和61年度経過報告、収支決算報告、会計監査報告

阿部淑子副代表幹事の司会で始まり、先づ来賓として県職労の鈴木委員長から、県政の動向、六月の県職員の大規模(二頁へつづく)

会費納入のお願い

未納会費の納入をお願いします。

●昭和62年度 年会費二,〇〇〇円

●終身会費 二〇,〇〇〇円

(但し入会金一,〇〇〇円は別)

終身会費切替えの方は、

昭和62年度入会の方は(年会費分

二,〇〇〇円)を差引いた

一八,〇〇〇円

横浜銀行県庁支店振替口座をご利用ください。普通預金口座番号 八七八一三九五

加入のおすすめ

●退職者にも冬の季節の到来です。年金法の改正により年金額の引下げ、ないしストップ!

●老人医療も有料化、それと保険以外の費用の激増など……。

●親睦だけの退職者会では力不足です。

現役の人たちや、全国の仲間と一緒に中央政府や国会への働きかけも必要です。

●会員には全労済の火災・生命・自動車共済や、グループ保険加入者の生涯保障制度への切替え、県職労の顧問弁護士、公認会計士への相談など福利厚生事業が引続き利用できます。

●新しい時代の退職者会への先駆的役割を目指しています。

楽しい総会にするために

形式を排す

県職労退職者厚生会の第三回定期総会が、去る5月17日(月)・18日(火)の両日にわたって箱根大平荘で開催された。当会発足にあたっての趣旨の一つに、

孤独に陥り勝ちな退職者に対して、少くとも年一回くらいは温泉につきり、新しい友と知り合い、また、お互いの胸襟を開いて語り合う機会をもってもらおうと、形式的な総会を排し、実りあるものにしようという意図で昨年同様開催する

(二頁からつづく)

な人事異動等について解説を含めた挨拶があり、次いで県職労、明田中・高年部長、現業労組若沢事務局長から、それぞれ組織の拘える課題等についての説明と挨拶があった。

次いで、規約により秦代表幹事を議長に選出して議事に入った。

経過報告では、児玉幹事から、この機会に皆さんと勉強をと国内外の社会経済情勢について、世界一金持国、官貧民富の日本の実態さらに、旧国鉄職員の破産的共済年金救済のための、他の共済年金との統合と将来に向けての一元化の問題など、今後われわれ退職者に関係のあることを解説して、経過報告を行った。次に昭和61年度収支決算報告について本田副代表幹事から報告、会計監査については田中幹事から適正に執行されている旨の報告があり、以上一括採決を諮ったところ、全員の拍手をもって可決された。

どの調査開拓など提案理由を説明した。次に予算案について岡本新幹事から提案理由があり、以上一括採決の結果、多数の賛成を得て可決されたのである。

以上ですべての案件が処理され、午後五時、無事総会が終了した。

○新役員 (任期二ヶ年間)

― 中広く人材を求めて ―

ともすれば、組合関係者等によって選任され勝ちとの誤解・偏見があつてはならないとの認識にたつて、広い視野、誠実さ、創意実行力のある人、等を各方面の意見を求めて人選し、個別に交渉した結果、次のような役員構成案を提案・総会の承認を得た。したがつて、組合活動に全然無縁な超党派の方もおおり、退職者厚生会は今後も会員の自薦・他薦を含め中広く人材を発掘獲得することが、会の発展に不可欠であるので、是非皆さんのご協力をお願いしたい。

- (2)役員改選
- ここで、別掲のとおり役員改選について諮ったところ、異議なく拍手をもって承認を得た。
- (3)昭和62年度運動方針(案)、収支予算(案)
- 役員改選のあと、昭和62年度運動方針(案)の提案に移り、児玉副代表幹事から(1)情報活動の強化、(2)全労済を柱にした福利厚生強化(3)退職者地位向上のための他団体と協力と、中央への各種陳情、請願など、(4)新会員増加のための活動、(5)委託事業な

代表幹事	秦 謙治郎 (アイウエオ順)
副代表幹事	児玉 欣一郎
幹 事	阿部 淑子
〃	青木 武
〃	阿佐見 健
〃	岡本 一二
〃	串田 洋

- 長島 正治
- 諸星 ヒサ子
- 横山 善助
- 庄司 三雄
- 田中英子

親睦、会員交流会

ユニークな全員の自己紹介……爆笑高々

充実溢れる総会を目指したためであらうか。……総会は予定時間を超え午後五時近く閉会した。このため六時からの親睦、会員交流会までには温泉に浴する時間のない方も多かつたようだ。

交流会は昨年同様、横山幹事の名司会で始まった。主催者側の挨拶のあと乾杯から食事に移つたが、早速、この交流会の目的の友達づくりの一環として、一人、一人正面のマイクの前に進み出て、憶することなく、持味を生かした自己紹介……家庭の話題、趣味、抱負など、時々爆笑を誘うこの自己紹介形式は、余興を上廻る効果があつたようだ。約四十名に及ぶ自己紹介で余興の時間を十分とる余裕がなかったが、清水さんの「ハーモニカ独奏やご婦人の軽快な踊りなどで賑やか。最後に県職労本部好意の福引商品の提供があり、全員に商品が手渡され、名残惜しげに散会したが、そのあとは、各自室毎に三三三、五五深夜まで談笑に話を咲かせ、翌十八日は快晴の中、十時それぞれ帰宅の途についた。再会を楽しみに。

会員通信

「ご投稿ありがとうございます。みなさんのお便りをお待ちします。」

退職者厚生会の総会に出席して

― 楽しい雰囲気終始 ―

県に在職中は、職員組合のことなど比較的無関心で、とくに気にしない私が、ある親しい友人に誘われて、今年県職労退職者厚生会に加入させていただきました。そして五月、第三回定期総会が箱根大平荘で一泊二日で開催されることので始めて出席してみました。そして入会してみても本当に良かったと痛感しました。

それは、会をよくしようという皆さんの熱意と終始なごやかな会合に、また親身になってお世話下さる役員の方々のなみなみならぬご苦労には頭がさがりました。懇親会の席では、それぞれが持味を生かした自己紹介や、のど自慢が次々と披露され、皆さんの芸達者に感服し、本当に楽しい一時がまたたく間に過ぎてしまいました。

また、ある会員から「死ぬまで勉強ですよ」云われて何にでも挑戦するその方の意欲に私も刺激されて、今後の人生にも夢をもたなければと深く反省させられた二日間でした。

(M子)

第 3 回定期総会スナップ



総会々場にて



議案説明↑

実りあるものにするために
(熱心な討議)



懇親会場にて



カラオケ合唱↑



1人・1人マイクの前で↑
爆笑を誘う自己紹介

退職後こそ
一層楽しく

あなたも来年どうぞ!



踊り出すご婦人↑

神奈川県職員現業労組

第 33 回 定期 大会

と き 6月19日～20日
と ころ 箱根 嶺水苑

事務局から

○第17回全国高齢者大集会

と き 9月15日12時～14時30分
と ころ 川崎市体育館駅から徒歩10分
主催者 全国高退連・全国老地連など
二十団体

プログラム

●総合同会 飯窪長彦（NHKアンサー）
神田陽子（講談師）



非常勤職員問題の比重大きく

一般職員の手足となって県政の基盤を支えている現業職員の方々の、生き甲斐と、働き甲斐を求めて組織化されてから三十余年の歴史を持つ県職現業労組は、有能な執行部に支えられて全国的にも高い評価を得ているのは周知のとおりである。

その労組も組合員の高齢化と、退職に伴う非常勤職員を多く抱え、その悩み解決のため努力されていることは、われわれ退職者厚生会にとつても無縁ではなく、今後連絡をつよめてゆくことは、非常勤職員が正規職員の六分の一雇用されている現状をみると、その縮図ともいえる現業労組の活動を通じて現状を学びとる必要がある。

このようなこともあつて、来賓としてご招待受けたのを機に、本会から、児玉、串田、諸星の三幹事が研修を兼ねて出席させていただいた。

○自治労退職者火災共済について

お問合わせがありますが、これは全労済の火災共済と内容は殆んど変わりません。

△全労済火災共済は、当会→全労済県本部
→全労済中央本部

△自治労退職者火災共済は、全日本自治体退職者会(自治労内)→全労済中央本部
で最終元受は共に全労済中央本部です。

組合員の意識が高いためでもあろう。午前九時頃には早くも約七十名を超える代議員が参集し、定刻十時には熱気溢れる中で開会された。

議長団選出のあと、来賓として県職労、鈴木委員長のと、当会児玉副代表幹事から当退職厚生会の秦代表幹事も現業労組の出身であり、身近かな存在であることなどと、退職者としての心境と心構え、そして退職後の当会入会を要請した。

一日陪席して、現役時代に戻ったような若き日を思い出し、熱心な討議を傍聴し、「日日新月异」の感を深くした。夕刻からの懇親会には知己の方も多く、温かい後輩の友情に胸の熱くなるのを抑え切れなかった。いづれにしても、この二日間には私達にとってよき研修の機会となったことは確かである。現業の方々には幸あれ！

編集・発行人
県職労本部内
退職者厚生会
発行人 秦謙治郎
発行日 62.9.1

No. 7

横浜市中央区本町4～7
TEL 045-212-3179(直通)
045-201-1111
(内線7953)